

会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度 第1回所沢市学び創造アクティブプラン推進委員会
開 催 日 時	平成30年7月11日(水) 15時00分～16時30分
開 催 場 所	所沢市立教育センター セミナーホール
出席者の氏名	〔委員〕 東京工業大学名誉教授 赤堀侃司、所沢小学校長 向井茂樹、 向陽中学校長 田中和貴、小学校PTA代表 小野塚勝俊、 中学校PTA代表 川口貴史、健康づくり支援課保健師 八川麻紗子、 社会教育課主査 金田俊一、所沢図書館主査 藤巻幸子、 保健給食課主査兼指導主事 澤村文香、 所沢市スポーツ少年団代表 中井正勝、 ほうかごところスタッフリーダー 山田壽男、 NPO子ども大学ところざわ代表理事 小出敦子、 所沢市幼児教育振興協議会長 原 勉、西所沢保育園長 柵木優子、 富岡小学校主幹教諭 黒丸貴子、東中学校教諭 齋木修二郎
欠席者の氏名	スポーツ振興課指導主事 久保田勇士
議 題	1 説 明 (1)本委員会について (2)『学び創造アクティブプラン』基本方針・行動方針説明 2 協 議 ○協議の視点 〈学校・家庭・地域の3つの行動方針をどのように具現化するか〉 (1)児童生徒が主体的に学び、「わかる喜び」を味わえる授業の創造(学校) (2)生活習慣の見直しによる家庭学習の習慣(家庭) (3)「考える力・判断する力・表現する力」を育成する体験活動の充実 (地域)
会 議 資 料	・平成30年度第1回所沢市学び創造アクティブプラン推進委員会次第 ・平成30年度所沢市学び創造アクティブプラン推進委員名簿 ・所沢市学び創造アクティブプラン推進委員会設置要綱 ・所沢市教育振興基本計画(一部抜粋) ・平成30年度所沢市行政推進施策(一部抜粋) ・「学び創造アクティブプラン」学力向上推進事業【基本方針・行動方針】 ・「学び創造アクティブプラン」学力向上推進事業 リーフレット ・学校アクティブ研究校・学校クリエイト研究校研究題目一覧 ・平成29年度第1期「ノーメディア」と「早寝・早起き・朝ごはん」チャレンジシート

担 当 部 課 名	<p>学校教育課 電話04(2998)9238</p> <p>〈出席者〉</p> <p>内藤隆行 教育長、岩間健一 学校教育部長、</p> <p>戸村達男 学校教育部次長兼学校教育課長、米澤三八子 教育センター所長、</p> <p>中田利明 学校教育課教育指導担当主幹兼健やか輝き支援室長、</p> <p>藤田恵子 学校教育課指導主事、阿部英貴 教育センター指導主事、</p> <p>田中文仁 学校教育課指導主事、真崎孝博 学校教育課指導主事、</p> <p>高鍋英彦 学校教育課指導主事、大倉勉 学校教育課指導主事</p>
-----------	--

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
司会 (指導主事)	本日の記録は要点記録とし、発言者は、すべて「委員」として記録する。
	<b>◆開会</b>
司会	進行は事務局の藤田が担当する。平成30年度第1回所沢市学び創造アクティブプラン推進委員会を開会する。
司会	内藤教育長より挨拶を申し上げる。
教育長	<p>委員の皆さまには、大変ご多用の折、お集まりくださり、感謝申し上げます。また、日ごろより、様々な立場から、所沢市の子供たちの健やかな成長のためにご尽力いただき、心より感謝申し上げます。</p> <p>本市の「学力向上推進事業」は、3つの段階を経ている。最初の段階は「学び改善プロジェクト」として学校の授業を改善する取組を行った。第2段階が「学び創造プラン」として自主的な学びを創造していこうという取組を行った。そして現在はその3段階目の「学び創造アクティブプラン」である。この事業は「主体的・対話的で深い学び」を学校・家庭・地域において、子供たち、保護者、教員がさらに学びを主体的なものとして高めたいという願いを込めている。</p> <p>所沢市教育委員会では、教育理念として3つの宝、「心身のたくましさ」「未来を拓く知恵」「ふるさと所沢を愛する心」を掲げている。3つの宝について調べてみると、古く中国では、「我に三宝有り」と老子の時代から言われている言葉である。</p> <p>「未来を拓く知恵」は、単に知識を吸収すれば良いというのではなく、学んだことをどう生かしていくかということである。従って知恵を「拓く」という開拓の「拓」を用いている。「心身のたくましさ」は、何よりも健康で、衣・食・住を支えていけるような、そして困難に遭遇した時にたくましく対応できるような力を、みんなで力を合わせて育成していきたいという願いが込められている。単に学力テストの平均点を上げたい、数学の成績を上げたいということではなく、所沢の教育がどうあるべきかを協議し、力を合わせて本事業を進めていきたい。</p> <p>これまでの取組の成果が埼玉県教育委員会にも評価され、「埼玉教育」に4ページにわたり掲載された。</p> <p>本委員会においては、幼児教育、学校教育、家庭教育、社会教育等、様々な分野で子供たちの育成に関わっている方々から、所沢市の子供たちの健やかな成長を支援するためのご示唆をいただきたい。</p>

司 会	委員の紹介並びに事務局自己紹介
司 会	委員長の選出を行う。設置要綱第5条により委員長・副委員長については、委員の皆様との互選となっている。いかがか。
委 員	委員長を赤堀先生にお願いしたい。
司 会	拍手多数ということで、赤堀先生にお願いするということがよいか。赤堀先生にお願いしたい。次に副委員長は、いかがか。
委員長	田中校長先生にお願いしたい。
司 会	拍手多数ということで、田中校長先生にお願いするということがよいか。田中校長先生にお願いしたい。
委員長	<p>委員長より挨拶申し上げる。この学力向上支援事業は、これまで「学び改善プロジェクト」3年間、「学び創造プラン」3年間、今回の「学び創造アクティブプラン」が2年目ということで、8年目を迎える息の長いプロジェクトである。私はこれまでもこの会議に参加し、勉強させていただいている。特に2月の研究報告会では、研究指定校における多くの先生方の発表がとても勉強になる。これからは是非学びの追究をしていただきたい。</p> <p>新しく学習指導要領が施行されると、小学校では色々な新しい教科が目白押しになってくる。そういう点で「学び創造アクティブプラン」の推進校がリード役となり牽引していただいていることは大変うれしいことである。そういう点で、この推進委員会の役割は大きいと考える。</p>
副委員長	副委員長より挨拶申し上げる。行政から学校現場に戻り、改めてこのプランの成果が出ていると感じている。子供たちは、前回学校に勤務していた時と比べてステップアップしたような印象を受ける。それは、子供たちが自分を表現することを意識し、またそれを導き出す教師の授業の工夫も進んできていると感じるからである。今後より一層アクティブに所沢の教育が進んでいけば良いと考える。
委員長	では、事務局より、「学び創造アクティブプラン」の説明をお願いする。
事務局	◆プレゼンによる説明
委員長	このプランの内容について質疑応答をしたいが、いかがか。
委員長	推進委員の任期と推進事業の期間は関連しているのか。推進委員会は「学び創造アクティブプラン」とは独立したものなのか。
事務局	推進委員の任期は2年間、「学び創造アクティブプラン」は3年間で、期間は違うが、連携している。推進委員会設置要綱の2条に書かれていることについて推進委員の皆様にはご助言いただき、本プランに反映していく。是非、2月の研究報告会で各学校の報告をお聞きいただき、第2回推進委員会でご意見を伺いたい。
委員長	今年も、研究指定校の発表の日程が案内されるのか。また推進委員は参観に行けるのか。
事務局	後日、事務局から案内を出すので、ぜひ参観していただきたい。

委員長	<p>協議の視点 〈学校・家庭・地域の3つの行動方針をどのように具現化するか〉</p> <p>①児童生徒が主体的に学び、「わかる喜び」を味わえる授業の創造（学校）</p> <p>②生活習慣の見直しによる家庭学習や読書の習慣（家庭）</p> <p>③「考える力・判断する力・表現する力」を育成する体験活動の充実（地域）</p> <p>について、委員それぞれの立場から意見を伺いたい。</p>
委員	<p>保育園で乳幼児を保育するに当たって、学校につなげる力の育成を意識している。遊びの中で表現する力、言語表現、体による表現、創作活動などを通して育成している。考える力を育成する声掛けなども気を付けている。子供たちが「どうしてなんだろう」と不思議に思うことを考えながら、探求心をもち、遊びの中で色々なことを自分で考え学んでいけるように意識して保育を行っている。</p>
委員	<p>幼稚園、保育園から小学校に上がっていく段階での問題点の解消に向け、幼・保と学校が、互いに環境を近づけて、子供たちが不安なく小学校に入学できるようにするにはどうしたらよいかということに連携して取り組んできた。先日、小学校の公開授業に伺ったが、本プランが実践されていると感じた。また、小学校1年生の教室が、幼稚園、保育園に近づけた教室環境になっている。これなら安心して通えるようになって感じた。授業でも、めあてが明確に板書され、子供たちがしっかりと理解できているかを、教師が子供たちの間をめぐりながら確認する姿を見て、我々が子供の頃に受けていた授業とは違ってきていると感じた。</p>
委員長	<p>幼児教育から学校教育への接続について、また小学校の取組について小学校の教員の立場からご意見を伺いたい。</p>
委員	<p>幼・保・小の連携については、近隣の保育園や幼稚園の先生や子供たちに学校に来てもらい、トイレの様子や授業の様子、遊具の様子等を見てもらうことで、入学に向け、どんなことをやっておくべきかななどの情報を、幼稚園からも家庭に発信していただいている。</p> <p>本校は昨年度、「学び創造アクティブプラン」のアクティブ研究委託校として、算数の研究に取り組んだ。ホワイトボードを活用し、一人一人の考えをボードに書き、3～4人グループで話し合い、全体で共有する授業の流れを本校のスタンダードとし、全学年で統一した。それが定着してきており、ノートのとり方、授業の流れ、見通しのもち方など、大変勉強させていただいている。</p>
委員	<p>「NPO子ども大学ところざわ」は、今年で9年目になる。毎年、小学校4～6年生を対象に、地域の教育力を生かし、学校ではなかなか学べないような学びの場を提供することが趣旨である。このプランの改正の頃から参加させていただき、ここ2～3年感じていることは、このプランがより濃く発展しているということである。それが、子供たちにも影響を及ぼし、着実に身につけている。私たちの活動に参加している子供たちは、このプランで述べている「考える力」・「判断する力」・「表現する力」をベースに、一歩発展させて「つなげる力」を少しずつ発揮している。指導する側が特別な手立てを打たなくても、子供たちが他学年や他の学校の子供たちとつなが</p>

	<p>ることができている。保護者アンケートにも家庭で見たこともないような笑顔をしているという記述があった。しかし、学校や地域で子供たちは様々な学びを経験しているが、それが家庭にもつながっているのかと疑問に感じている。学校や地域で学んだことを、保護者が家庭でもつなげていくことが大切である。</p>
委員	<p>地域との関わりがあるお子様は、その保護者が地域に積極的に関わっている場合が多い。PTA活動に関わっている保護者に関して言うと、保護者がアクティブに活動に関わっていて、そういったご家庭のお子さんも色々なイベントに出てきている場合が多い。逆にいうと、地域の方にあまり出てこない保護者のお子さんは、やはり地域のイベントにも参加していないという実感がある。我々の小学校において地域との協力で行う大きな祭りには、子供だけで参加する場合もあるが、親子除草のような活動には、本校の児童800名程いるうち、参加してくださる保護者は30名程度である。地域と関わろうという意識が、保護者間で違いがあることを感じている。</p>
委員	<p>地域の活動に興味がある保護者は、地域の活動に積極的に参加すると思うが、そうでない方は、積極的に子供たちの学びを家庭につなげていくことはなかなか難しい。私自身も、休日に子供の学びのために何か実行できるかという、なかなか難しい。日頃の仕事の疲れもある。私が勤務している保育園の保護者を見ても、朝7時から夜7時まで働き、土・日は家庭の掃除や子供と遊ぶ時間にとられることが多く、子供の学びのために時間を作ることは難しいのではないかと考える。</p>
委員長	<p>中学校では、生徒の地域への活動参加については試みられているのか。そのことを踏まえ、中学校の活動についてお聞きしたい。</p>
委員	<p>ここ数年、地域のボランティア活動に中学生が参加する機会が増えている。夏休みには、学校や公園を会場として地域の盆踊り大会等が開催されているが、そこに中学生が運営スタッフとして派遣されたり、9月1日の防災訓練にも参加したりしている。先日は、地域の公民館で開催された三世代祭りで、おじいちゃん・おばあちゃんの世代から孫の世代までが一堂に会して、昔の遊びを一緒に楽しむなどの触れ合いの場にも中学生が多く参加している。しかし、保護者が興味をもたれている家庭では、子供も積極的に顔を出すというように、参加者が限定的であり、今後どう拡大していくかが一つの課題である。</p> <p>所沢市の課題として、家庭学習の定着が全国の数値と比較して低いことが挙げられているが、家庭学習に関しては非常に難しい問題がある。保護者も勉強は塾に行けばよいと考える方が多い。特に3年生になると、受験もあり、ほとんどの生徒が塾に通っている。塾からも課題が出て、生徒は宿題に追われ、授業中に眠ってしまう子も多い。そんな中、学校からも課題を与えて、家庭学習をしておいでと言うと、生徒もどんどん追い込まれていく。生徒もゆとりがないと感じている。家庭学習や課題等に関して、家庭と学校とで連携を取り、情報共有をしながらやっていかなければ、つぶれてしまう生徒が出てしまうのではないかと危惧しているところである。</p>

委員	<p>子供たちの放課後の遊びの部分に関わっているのですが、学びとどの程度つながるか分からないが、子供たちは、授業が終わった後に来るので、解き放たれたように一生懸命遊んでいる。うまく遊べている子は、授業中にたまっていたものをうまくはき出せているように見えるが、中には子供たち同士でうまくコミュニケーションを図れない子もいる。親の子供との関わりが少なくなってきたからではないかと思う。15年前に比べて、PTA活動も簡素化されている。子供たちにとって、どこかで必ず色々たまったものはき出す部分がないと、次の日に良い学びができなくなってくる。一生懸命に遊べる環境を作ってあげることが大切である。</p>
委員	<p>スポーツ少年団そして様々なスポーツチームでは、色々な行事を行っている。保護者の参加を呼びかけ、子供と保護者が一緒に楽しめるようにすると同時に、指導者の在り方についても勉強している。昨年も朝日新聞のインタビューを受け、取り上げられたが、あらゆるスポーツ指導者にとって大切なことは以下のとおりに思う。</p> <p>①指導者の情熱が選手にも伝わるような姿勢。②選手に対する期待を明確にし、選手に不安感を抱かせないこと。③子供たちの前で、選手の起用法に関して、選手の良しあしを言動に表さないこと。④指導者と選手は、すべて礼儀が大切であること。挨拶、言葉遣い、感謝の心と「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」。⑤どのようなチームを作るか指導者の考えを明確にし、練習の方法も選手に十分理解させること。⑥時間の管理として、練習など合理的・効果的な方法で行い、話は簡単に具体的に伝えること。⑦常に誰かが見ているということを忘れてはならないこと。直接関わりのない周りの人や他の指導者や子供たちも見ているということ。⑧準備運動と整理運動の重要性。⑨選手の健康・安全管理。⑩とにかく笑うこと。自律神経を活発にし、ほめて育てることが重要である。悪いところを見つけるのは簡単である。選手の良いところをどのように見つけるかが、指導者の本質である。そういうことを重視したチーム作りがどのようなスポーツでも共通して必要なことである。</p> <p>今、様々なスポーツにおいてスポーツ少年団の人口が減ってきている。所沢のスポーツ少年団は、他の地域に比べて人数が多いほうであるが、少しずつ減ってきている。特に母親の多くが仕事をされていることや少子化は理由にはならない。“魅力あるスポーツ”とは何かという根本的なことを、指導者は本気で考えていかなければならない。まず、保護者が、子供をスポーツ少年団に入れる前に、これもしなきゃ、あれもしなきゃと色々考えているような状況を解消しなければ、子供たちは入れない。</p> <p>学校において、ICTの活用がされているが、ゲーム機についてどのような指導がされているのか。ゲーム機は高い物では4万円や2万円くらいする。そして子供が30人いれば15人は持っている。公園で子供たちが5、6人で遊ぶ様子を見ても、それぞれがゲーム機やスマホを使っていて会話がなかった。会話はとても重要である。さらにゲーム機は目の動きがないのが問題である。目は“心の窓”と言われているが、目は動くことで心の健康を保つことができるからである。ノーメディアチャレンジの取組をしているものの、実際に各家庭でゲーム機を買っているわけだから、学校は実</p>

	際に起きているそういった問題に対して、なかなか指導はできないかもしれない。
委員長	学校や各家庭で、ゲーム機の使用について具体的に指導していることはないか。
委員	中学生は、ゲーム機というより、スマートフォンのアプリを使って遊んでいることが多いと思う。今の子供はゲームばかりやって会話がなと言われていたが、今は大人もそうなっている現状である。ファミリーレストランなどに行って、家族そろって食事をしているのだけれども、両親が携帯をいじっていて、子供も無言で食べているような場面をたくさん見るので、まずは大人から変わっていく必要があるのではないかと考える。
委員	私も委員の言うとおりの現状であると考え。保護者はみんな悪気なくやっている。私は仕事などでスマートフォンを見ながら子供と話してしまう時があり、そんな時は、はたと気が付いて使うのをやめるなんて言う時もあった。
委員長	この「学び創造アクティブプラン」では家庭でのルール作りを推奨しているので、学校からもっとPRをしていくことが必要である。
委員	乳幼児の集団での健康診断を行う際の健診票に「早寝・早起きの習慣は整っているか」という設問を設けている。幼児期における各健診で「何時に起きていますか」、「何時に就寝していますか」という細かいデータを取っているところである。3歳児健診になると、就園している子供が多いので、仕事をしている保護者の子供は特に、6時等早い時間に起きている場合が多い。しかし寝る時間がかかり遅いというのが私の印象である。特に父親は帰るのが深夜、母親は仕事から帰って、保育園に迎えに行き、ご飯作って食べさせて、色々やったらもう、子供を寝かしつけるのは9時である。もっと早く寝かせてほしいと言っても厳しいのが現状である。早起きはクリアしつつあるが、早寝が課題として残っている。 表現力についての話題もあったが、表現する力を子供たちは色々な場面で発揮していても、親がそれをしっかり受け止めるのが難しくなっている様な気がする。これまで対応してきた保護者の中には、精神疾患など色々な課題のある方も多く、そういった課題のある保護者は、子供がちょっとしたサインを送っていたとしても、それに気づかず過ごしてしまっていることがあり、子供がどこかで爆発してしまったりする。そういった子供たちが送っているサインを誰が気づいてあげられるのかということもいつも心配している。
委員	公民館にいた頃によく目にしたのが、子供たちが放課後によく来ると、やはりゲームをやって、あまり会話もなく帰っていくことである。先日、人権教育の講演会の中で、スマートフォンやメディアについて、家庭で30分などと利用時間のルールを決めて、家族で会話をする時間を作ることの大切さについての話があった。私はその話を聞いて、そのとおりで強く感じた。今の時代、スマートフォンを使わない、ゲームをしないというのは難しい。したがって、時間を決めたり、ノーメディアチャレンジのような取組を行ったりしていくことが大事であると思う。 「NPO子ども大学ところざわ」をはじめ、青少年関係の事業に関わっていく中で、



	<p>魅力ある事業を極力長い間継続させていくために協力していきたいと考えている。魅力ある事業であれば、子供も参加するだろうし、逆にそういった魅力のある事業が少ないから外に出ないのではないかと考えてもいる。今後もそういった魅力ある事業を考えながら仕事をしていきたい。</p>
委員	<p>現在、図書館の児童奉仕担当として、子供の読書活動の推進についての仕事を主に行っている。現在、学校教育課と所沢図書館が事務局となって、「第3次所沢市子どもの読書活動推進計画」の策定の準備を進めている。所沢図書館では、市内の小学校3年生全クラスにブックトークを実施しているため、学校現場に出向くことも多い。その一環で先日、松井小学校3年生のクラスにブックトークに行って本の紹介を行った。松井小学校の子供たちは学校図書館も充実しているので、本を読んでもらうことにとても慣れている。他の学校も同様だが、本を読んでもらうことが嫌いな子供は実はいない。ブックトークで色々な種類の本を紹介してくるのだが、個人の好みや興味の対象はそれぞれ違っていても、本を読んでもらうことについては、すべての子供たちが好きであるように感じている。</p> <p>家庭教育学級の講師をした際に、必ず話をしているのは、「親が本を読む家の子供は必ず本を読む子に育つ。」「親が本を読む姿を見ることや本についての話題を親子で共有することがとても重要である。」ということである。したがって「うちどく」の推進として、親子で一緒に本を読むというのは、このプランの中でも非常に重要なことなのではないかと考え、自分達の担うべき責任を感じている。この取組への支援も積極的に行っていきたい。「子どもの読書活動推進計画」と、「学び創造アクティブプラン」が良い形でリンクさせていただければ良いと考える。</p>
委員	<p>指導訪問に学校に行くと、めあての提示や子供の言葉による振り返りなど、「学び創造アクティブプラン」を推進していると日々感じている。一方で、子供たちが寝不足であったり、ご飯を食べてこなかったり、意欲が出ようにも出ないことは望ましくない。そういった意味でも「ノーメディア・早寝・早起き・朝ごはんチャレンジ」の取組は家庭を巻き込んでできる一つのチャンスなので、非常に期待は大きいと考える。このチャレンジシートの良いところは、自分で目標やルールを設定できることである。しかし、これが適切な目標に設定できることや、しっかり朝ご飯を食べてくるといった気持ちが育たなければ意味がないので、これからも健康教育を推進していきたいと考える。</p>
委員	<p>学校において、めあてを提示したり、グループで話したり、自分の言葉でまとめを書くという授業の形はできてきていると思う。学校としては、今後その質を高めていくことに向かっているかなくてはならない。例えば、めあての文言がまとめに直結するような、子供たちがずっとまとめにつなげていけるような言葉になっているのだろうか。また、まとめと振り返りの違いを教員がしっかりと押さえて使っているのだろうか。これからの学校の課題として各校でも研究を行い、質を高めていく必要がある。</p>

	<p>学校・家庭・地域の連携については、3者が一つになって同じ方向を向いて取り組んでいく必要がある。同じ方向を向いていても、それぞれ特徴を生かしてアプローチの仕方は違う。今日、提案していただいた「子供たちは基本的に良くなりたく願っている」という気持ちに寄り添う形で、学校と家庭と地域がそれぞれ協力していくことが大切である。</p>
委員	<p>「学び創造アクティブプラン」のポイントは、学校と家庭と地域が一体となって取り組むことで、その良さが相乗効果となることである。前教育長が「学び改善プロジェクト」の際に、達成率100%を目指していた頃は、学校を訪問しても、まだ教育委員会が目指しているものが浸透していないと感じていた。今は、どのクラスに行ってもできているし、ICTも随分活用されている。そう考えると、この8年間で推進してきた取組が充実してきている。</p> <p>より一層発展させるためには、例えばノーメディアチャレンジの取組によって生み出された時間を「うちどく」に充てた家庭の子が、「うちどく」をして良かったと実感できるようにならなければならない。自分が行った取組に対して、子供が実感できるサイクルを作ることが大切である。本を読んだら、それを何らかの形で表現させる。具体的には、朝学活のスピーチやその延長として校内の弁論大会を行う。また、三ヶ島中が行っている名画鑑賞や各校の音楽の発表の場もそうである。そういったサイクルの中で認めてもらえることで、それぞれの子供が「わかりたい」「できるようになりたい」という気持ちを、実際に到達して充実して実感することが必要である。</p> <p>これは地域のボランティア活動も同じである。地域ボランティアに参加した子の感想を見ると、やはり楽しかったと書いている。支援する立場の大人が、その実感させるサイクルを意識して意図的に計画していかなければ、子供に参加して良かったという実感をもたせることができない。本事業をこれから先に進めるためには、新たな取組をするというよりも、今あるものを充実させるために、子供に実感させる何かを、それぞれの立場で考えていく必要がある。</p>
委員長	<p>子供が夜遅くまで起きていて、学校に行ったらあくびをしているということ、親もスマートフォンをいつも見ていること、親が本をよく読む家庭では、子供もよく本を読むことなどから、親の在り方というものが今問われているような気がする。</p> <p>今、話題になっている「AI vs 教科書が読めない子どもたち」（新井紀子著）を読むと、いくらAIが発達しようと、子供がしっかりと本を読んで自分で考えていくという基本は最後まで残ると書かれている。池上彰さんは新幹線の中で、1冊本を読んでもしまうくらいたくさん本を読んでいる。それくらい読まなければ、あれだけの知識を伝えることはできない。知識がある程度頭に入っていないと、表現することはできないのだろうと考える。そういう点で「うちどく」は非常に良い試みなので、是非広めていきたい。親子で話し合っ、親も考え直すための機会を提供する取組として、この「学び創造アクティブプラン」があっても良いのではないかという感想をもった。</p>

部 長	皆様からの貴重なご意見は、これからの私たちの事業や施策への示唆となるものがたくさんあった。2月の第2回推進委員会では学校の成果も含め、実際の様子を皆様にお伝えしたい。
所 長	先日の指導主事会で、各校への指導訪問において本プランに基づいた指導ができるよう、指導主事として共通確認をし、2学期からの指導訪問等に生かすための研修を行ったところである。資料8ページに星印の付いている7つ学校は、教育センターの支援研修を受けている学校である。教育センターでは、これらの学校に対して、教育センター指導主事の力や指導者をつなぐことで、研究の後ろ盾としてバックアップしていく取組をしているところである。
次長	今回、親の在り方が問われているという議論があったが、この「学び創造アクティブプラン」の中でも家庭学習の充実や生活習慣の見直し等、家庭にご協力をいただくところがたくさんある。これをどのように呼びかけていくかというのも本プランの大きな取組の一つである。自分も親として改めて考え直さなくてはならないと感じた。
司 会	委員の皆様のご貴重ご意見に感謝する。平成30年度第2回所沢市学び創造アクティブプラン推進委員会は2月7日（木）13時30分より開催する。本年度学校アクティブ研究委託校16校そして、学校クリエイト研究委託校5校の発表会と併せて開催する。是非今年度の研究委託校の成果をご覧ください。
	<b>◆閉会</b>
司 会	平成30年度第1回所沢市学び創造アクティブプラン推進委員会を閉会する。